

神奈川県石川ひろのり

県議会レポート 2023 特別号

住み続けたい街
麻生区のために

石川ひろのり事務所
〒215-0011 川崎市麻生区百合丘1-5-4 米山ビル202
TEL 044-455-6611 FAX 044-455-6614

県議会控室
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 神奈川県庁新庁舎7階
TEL 045-210-7650 FAX 045-210-8933

<http://www.hiro-ishikawa.jp/>  石川ひろのり 

本当に神奈川県は住みやすいのか
あなたの納めた税金を
「生まれて・育って・住んで良かった」
誇りある神奈川県に。
今日より明日はきっといいことがある。
住み続けたい神奈川県を目指して。

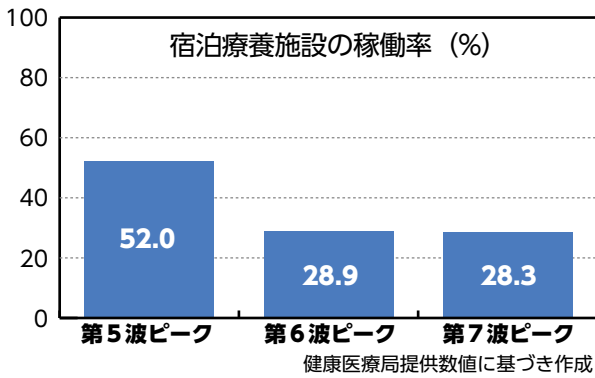


「新型コロナとの共存」これからのかながわを考える。 石川ひろのり 一般質問に登壇

主な質問

新型コロナ宿泊療養施設の 検証と総括について

石川▶ 新型コロナの感染症法上の分類が5類に引き下げられ、県としての宿泊療養施設の取扱いが終了した。宿泊療養施設事業には約380億円が費やされ、施設の維持と確保が行われた。初期は大型ホテルを利用していたが、効率的な利用が難しく、200室前後のホテルを複数借りるようになった。しかし、稼働率は低く、分散配置や利用基準の影響が考えられる。また、運営スタッフの配置等の検証もすべきである。これまでの運用をどのように評価しているのか。また、関係事業者等を含めたこれまでの検証と総括が早急に必要と考える。その上で、今後の感染症対策の運用指針等を作成し、関係事業者に協力の依頼を進めていくべきと考える。



黒岩知事▶ 当初は最悪の状況を想定し、大規模なホテルの協力を得て、県内2か所で受け入れ規模を確保した。その後、自宅に近い場所を望む声が多く、最大で県内13か所に宿泊療養施設を開設し、延べ約4万人の患者を受け入れた。入所者が少ない時期もあったが、希望する方々を概ね希望地域で受け入れたことから適切な運用だった。また、関係事業者を含めた検証と総括については、令和3年度から包括的に外部に委託し、効率化を図り、ホテルや運営委託先とは随時意見交換を行ってきた。今後、事業者から再度意見を聞いて検証し、新型コロナウイルス感染症に対応するための記録を残していく。さらに、将来的に新たな感染症が拡大した際に迅速に宿泊療養施設を確保できる体制を構築していく。



宿泊療養施設運用「適切だった」

県議会で知事答弁
ホテルなどを借り上げて新型コロナウィルス感染者を受け入れた「宿泊療養施設」を巡り、黒岩知事は「適切な運用だった」と答弁した。県当局はこれまでの議会で入所者数の少なさを繰り返し指摘され、「稼働率を上げたい」と答弁していたが改善しなかった。運用に対する評価が変わった理由の説明はなく、認識の整合性が問われる。宿泊療養施設の稼働率のピークはデルタ株がまん延していた二〇二一年八月二日の52%。千六百五十七室が収容可能で、八百六十五人が入所した。その後入所者は百人以下になり、オミクロン株の流行に伴って昨年一月二十日に六百五人（稼働率25%）まで増えたが、稼働率は高くても20%台にとどまった。

低稼働率 当局説明と食い違い

当初は入所対象を基礎疾患のある人らに限定していたが、昨年二月の県議会厚生常任委員会幹部が「稼働率が低いのは県民の理解が得られない」と答弁し、入所要件を希望者全員に緩和した。だが、稼働率は伸びなかった。知事は一般質問の答弁で「入所者が少なかったのは感染対策上、一棟単位で借り上げたためだ」と説明。しかし県は、感染対策のために一定の空き室を設けた上で収容可能人数を算出しており、矛盾がある。県は昨年度当初予算で宿泊療養施設の運営に三百九十億円を計上した。一般質問に立った石川裕憲県議（かながわ未来）は多額を費やした政策だと指摘し「総括もしないまま『適切』と言っただけの違和感がある」と批判した。（志村彰太）

2023年6月27日 東京新聞掲載

小中一貫教育と中高一貫教育の 現状と今後について

石川▶ 県教育委員会は、平成28年に「かながわの小中一貫教育」の資料を発行し、中1ギャップへの対応やいじめ・不登校の問題、学習面の課題に対処するための方策として小中一貫教育の推進してきた。さらに、小中一貫教育を推進するための検討会を設置し、モデル地区で実践研究が行われた。これらの成果をもとに「神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック」が作成された。しかし、ガイドブックには、組織づくりや導入手順、教職員の負担軽減などが紹介されているが、中1ギャップやいじめ・不登校の課題に関してほとんど触れられていない。ガイドブックに児童・生徒やその保護者の視点、意見も取り入れるべきである。また、相模原市や平塚市にある中高一貫校は非常に人気があり、入学希望者が多い一方で、県立高校では統合が進む中で、生徒数が定員に満たない学校もある。少子化を見越して中高一貫校を含む学校の在り方について将来展望を持つ必要がある。

教育長▶ いわゆる中1ギャップの抑制などに向けた一つの手段として、県教育委員会では小中一貫教育を推進している。小中一貫教育

は、学区内の小・中学校が連携し、教育目標などを共有し系統的に教育を行う仕組みである。この考え方や導入手順等を「小中一貫教育推進ガイドブック」としてまとめ、市町村に取組みを促してきた。現在16市町村で小中一貫教育が実施され、中学校の教師が小学校で授業を行ったり、学区内の子どもたちがオンラインで交流するなどの取組みが行われている。今後、こうした取組みをガイドブックに追加していく。ただし、小中一貫教育の取組みによってどの程度不登校等が解消したのか、その効果を測定することは困難である。小中一貫教育の推進は、子どもたちの視点に立った取組みと認識している。今後、事例をガイドブックに追加する際、子どもたちの意見・感想や生じた変化など記載していく。中高一貫教育については、県立高校改革実施計画に基づき再編を進めている。中高一貫校である県立中等教育学校について特段の位置づけはしていない。今後の中学校卒業予定者数の推移を見据えた上で策定した、Ⅲ期計画に基づき、高校の再編等を着実に進めていく。

その他「今後の生活困窮者対策」「地域行事における食品提供」についてなど質疑を行いました。

活動報告

▶ 令和5年度神奈川県戦没者追悼式

5月、神奈川県民ホールで行われた「令和5年度神奈川県戦没者追悼式」に出席し、献花をさせていただきました。終戦から78年が経ち、ご遺族や参列者が減少している現状を感じました。自身は戦争を知らない世代ですが、沖縄や広島での戦争の悲惨さと平和の尊さについて学びました。追悼式を通じて、私たちは多くの犠牲のもとで築かれた平和な暮らしを忘れてはならないと改めて感じた追悼式でした。



▶ 第73回川崎市民生委員児童委員大会

5月、カルッツかわさきで開催された「第73回川崎市民生委員児童委員大会」に出席しました。式典では171名の功労者が表彰されました。超高齢化社会の到来を迎え、地域福祉の役割がますます重要になっている現在、私は県に対して、民生委員の皆さまの業務内容が多様化し、多忙化している点を指摘し、根本的な業務内容の見直しや依頼内容の整理など、国に対して制度自体の精査を求めると要望しています。



▶ あさおサークル祭2023

6月、麻生市民館で開催された「あさおサークル祭2023」にお伺いさせていただきました。各会場では美術展、囲碁、フラダンス、謡曲などが行われ、活気に満ちていました。会場では多くの方々からお声掛け頂き、さまざまなお話を聞かせて頂きました。また、男の自慢料理サークルの皆さんが作られた大人気の「ハヤシライス」も美味しく頂きました。コロナ禍で制限されていた飲食や歌などが再開され、皆さんが楽しんでいる様子を見て、少しずつ日常を取り戻していることを実感しました。



▶ 新百合ヶ丘エリアマネジメント コンソーシアム2023年度全体会

6月、新百合トウェンティワンホールで開催された「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム2023年度全体会」に出席させていただきました。発足から5年、しんゆりフェスティバル・マルシェを中心とする新百合ヶ丘駅周辺でのさまざまなイベントの開催、共催、協賛を継続され地域に根ざした活動が行われています。今後は法人化の検討も含め、機能強化に向けた新たな挑戦についてのお話も伺いました。地域活性化のため、私も皆さまと一緒に微力ながら尽力して参ります。



▶ 第34回 華燿会展

6月に開催された日本画展「第34回 華燿会展」にお伺いしました。日本画家 大矢十四彦先生の指導のもと会員の皆さんの作品が展示され、会場では丁寧なご説明を頂きました。作品に関する感情や思いを込めた表現の意味を聞かせて頂き、鑑賞の視点が変わりました。心が穏やかになる楽しい時間をありがとうございました。



国際文化観光・ スポーツ常任委員会報告

今定例会で当局からの補正予算など議案等に関する説明を受け、各会派より「県民ホールの休館」「(全国旅行支援) いざ、神奈川! (第2弾)」 「部活動の地域移行」についてなどさまざまな質疑が行われました。特に「県民ホールの休館」については、存続は決まっているものの、建替え、改修等の方向性が定まらない中での告知の在り方、「部活動の地域移行」については、体育系、文化系の受け皿とされる団体・人材の確保、指導者への報酬、部活動費の今後についてなど活発な議論がなされました。



委員長



石川 裕憲
(かながわ未来)

タウンニュースよりインタビュー! 麻生区・神奈川県議会議員の横顔 “私服のひととき”

6月、タウンニュースの特別企画として、プライベートや素顔、今後取り組むべき課題などについてインタビューを受け、麻生区版に記事を掲載して頂きました。「今もこれからも現場主義」でしっかり活動して参ります! 詳細は石川ひろのりホームページ内「タウンニュース」をクリックしてご覧頂けます。



駅頭・街頭活動

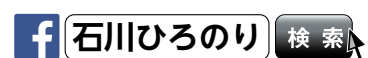
麻生区内の各駅にて、通勤・通学時間帯を中心に駅頭・街頭活動として、議会レポートをお配りしています。毎回多くの皆さまからお声を頂き、地域の皆さまの生の声をお伺いさせて頂く貴重な機会となっております。お見かけの際はぜひご意見・ご要望をお聞かせください。



石川ひろのり プロフィール

1968年11月3日生まれ 横浜市出身。旅行会社、飲食業を約20年間経験。「行政とはサービス業である」との言葉に感銘を受け、37歳で衆議院議員岩國哲人事務所へ転職。その後、参議院議員公設秘書を経て、政策秘書資格を取得し参議院議員政策秘書を務める。衆議院議員 笠ひろふみ秘書を経て、2015年4月神奈川県議会議員に初当選(現在3期目)。麻生区在住。引きこもり支援相談士。
趣味: ジョギング(湘南国際マラソン大会・横浜マラソン大会などに出場。自己ベスト記録3時間29分28秒) 家族: 妻、子供一人
好きな言葉: 「石の上にも3年」初めて社会人になる時に父から言われ「どんなに苦しくても耐えること。そこで初めて全体が見える」という言葉を今でも忘れない。

▶ 議会レポート、タウンニュースのバックナンバー・
委員会質問など詳しくはHPまたはFacebookにてご覧頂けます。



石川ひろのり
ホームページ



ボランティア
スタッフ募集

石川ひろのり事務所では随時ボランティアスタッフを募集しています。広告用チラシ折り、ポスター掲示、街頭演説のお手伝いなど短時間でもかまいません。TELまたはHP内お問い合わせよりご連絡をお待ちしております。

石川ひろのりの活動への
ご支援(個人献金)のお願い ▶ 石川ひろのり後援会 【郵便局】 払込取扱票にて(口座番号 00200-7-52777) 【銀行】 三井住友銀行 新百合ヶ丘支店 普通 口座番号 6902358

石川ひろのりへの ご意見・ご質問をお待ちしております。 FAX 044-455-6614	ご意見など	お名前	TEL
		ご住所	